

日本ミシェル・アンリ哲学会

レヴィナス協会共催 第十五回研究大会 プログラム

昨年9月、法政大学出版局より『ミシェル・アンリ読本』と『レヴィナス読本』が刊行されました。今大会では、二つの『読本』の刊行を記念し、日本ミシェル・アンリ哲学会とレヴィナス協会との共催シンポジウム「アンリとレヴィナス——『読本』同時刊行を記念して」を開催します。アンリとレヴィナスにはいくつかの重要な共通点があり、両者の関係についてはこれまでも多くの比較研究が行われてきました。そこで今回は、『ミシェル・アンリ読本』執筆者で本会会員の吉永和加氏、『レヴィナス読本』編集委員でレヴィナス協会会員でもある平岡紘氏、さらに両読本に寄稿された樋口雄哉氏をお招きし、アンリとレヴィナスの関係について改めて考察していただきます。また、それに先立つ午前の部では、平光会員によるアンリとベルクソンの比較研究、および、鈴木会員によるアンリのマルクス論の再考の試み、という二つの研究発表が予定されています。

なお、今大会は対面開催を基本とします。オンラインにも対応しますが、十分な対応はできない可能性もありますので、ご注意ください。日本ミシェル・アンリ哲学会、レヴィナス協会の会員には、事前に会場、Zoomアクセス先等をご案内いたします。また、上記会員以外の方は、お問い合わせいただければ、同様のご案内をいたしますので、参加希望の方は、下記の事務局までお問い合わせ下さい。

期日：2023年6月10日（土）

神戸女学院大学 文学館L-20（オンラインにも対応）

【研究発表】

10:30～11:20

平光哲朗（神戸学院大学）

「ベルクソンとアンリ、感情における持続と情感性」

11:30～12:20

鈴木泉（東京大学）

「ミシェル・アンリ『マルクス』再考——「フォイエルバッハ・テーゼ」をめぐって——」

12:20～13:30 昼食

13:30～14:00 総会

【シンポジウム】

14:10～17:40

テーマ：「アンリとレヴィナス——『読本』同時刊行を記念して」

提題者

樋口雄哉（同志社大学）「自己から逃れることと自己から逃れられないこと」

平岡紘（流通経済大学）「レヴィナスとアンリにおける身体の問題」

吉永和加（名古屋市立大学）「形而上学への二つの道：自己-触発と異他-触発」

司会

服部敬弘（同志社大学）

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学文学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0798-51-8677 E-mail : sj.michel.henry@gmail.com

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>